

2007年（平成19年）～

- ・楽譜支援が大きな成果
- ・会報編集長交代
- ・JOF C更に躍進へ
- ・札幌くらぶコンサート復活へ

楽譜支援が定着

平成18年度総会で、具体的な札幌支援策として決定された、札幌くらぶによる楽譜支援は、購入された楽譜に「札幌くらぶ寄贈」が明示され、楽員の皆さんに札幌くらぶの存在をアピールする大きな力になっています。ホスト会員の年会費からの500円分に合わせ任意の寄付も順調に集まり、毎年50万円を支援という目標も実現できています。

平成21年度は札幌からの要請で、演奏会の時に使う楽譜の台紙が古くなったため、予算を若干オーバーして新しい台紙を寄贈することになりました。今後、札幌の演奏会では譜面台の上に札幌くらぶから贈られた台紙が置かれることとなります。

会報編集長交代

1998(平成10)年の第6号から「札幌くらぶ」の編集長を務めてきた佐藤副会長が、2007(平成19)年9月の第40号発行を機に編集長を退くことになりました。第41号からは松尾英樹新編集長となり、それを機会に会報の体裁も一新することになりました。既に、新編集長になってから6号目までが発行され、体裁だけではなく内容的にも新たなアイデアが随所に見られ、より会員に親しまれる会報になっていくものと期待されています。

JOF C歩み着実に

2006(平成18)年に札幌で設立された日本プロオーケストラファンクラブ協議会は、

2007(平成19)年には仙台市で第1回総会を開催し、平成20年度には山形市で第2回総会が開催され、着実に躍進を重ねています。

第1回総会には札幌くらぶから上田会長はじめ13名が参加。資料参加という形ではありませんが、名フィルファンクラブが初参加しました。第2回総会には15名が参加。発足時の5ファンクラブに名フィルファンクラブ、石川県立音楽堂「楽友会」が加わり、7団体で100名を超える盛大な総会になりました。交流会にはオーケストラの支援団体アフィニス財団の代表者も挨拶に訪れ、JOF Cの活動は予想以上に早く拡大と躍進を続けています。

札幌くらぶコンサート復活

2005(平成17)年の第7回を最後に、実質的に中断していた札幌くらぶコンサートが復活しました。

スタッフ会議で何度も検討を重ね、従来の「札幌の次世代のファン創出」というコンセプトから、「熟年・団塊の世代に懐かしい、親しみのあるコンサートを提供」というコンセプトに衣替えしての再出発です。

新装なった第8回コンサートは、2009(平成21)年8月9日(日)午後5時にキタラで行われます。当日の指揮者には、映画「おくりびと」で一躍話題になった山響音楽監督の飯森範親さんを迎え、「新世界」をメインにした親しみやすい名曲のコンサートになります。また、新企画として、曲当てクイズが企画され、楽しいコンサートになるものと思います。